事業所自己評価シート

令和６年度

職員による自己評価

実施：令和７年２月　回答５名

Ａ環境面

1.　訓練室等スペース
　100%確保されているとの評価だった。
2.　職員の配置数
　80%が適切であるという評価だった。
3.　設備においてバリアフリー化の配慮
　100%適切であるという評価だった。

Ｂ業務改善

4.　業務改善を進めるための参画
　80%が評価していた。
5.　保護者の意向を把握し業務改善につなげているか
　80%の評価だった。
6.　自己評価結果の公開
　80％が適切に公開しているという評価だった。
7.　外部評価について、
　60%が外部からの評価を業務改善につなげていると評価している。
8.　研修の機会確保
　100%が評価しており、研修により質の向上を図っている評価を得た。

Ｃ適切な支援の提供

9.　客観的分析による個別支援計画の作成
　100%が適切にできているとの評価だった。
10.　標準化されたアセスメントツールの使用
　80%が使用できていると評価している。
11.　活動プログラムの立案
　100%がチームで行うことが出来ていると評価している。
12.　活動プログラムの工夫
　100%が固定化しないよう工夫していると評価している。
13.　課題設定に応じた支援内容
　60%が出来ていると評価している。
14.　子どもの状況に応じた支援計画の作成
　80%が出来ていると評価している。

保護者による評価

実施：令和７年２月　回答52名　未回答　名

Ａ環境面

1.　活動のスペース確保
92%確保されているとの評価だった。
2.　職員の専門性
88%が適切であるという評価を得られた。
3.　設備
80%がバリアフリー化の配慮がされていると評価していた。詳しく分からないの解答が 15%の評価であった。来所の機会が少ない保護者も多くいらっしゃることも原因と考える。

Ｂ児童への支援内容

4.　個別支援計画作成
94%客観的に作成され分かりやすく説明されているという評価だった。
5.　活動プログラムの工夫
84%工夫されているという評価だった。詳しく分からないの解答が 13%であった。活動内容は日々お伝えしているが、月間の活動予定表などであらかじめ提示することで内容を知ってもらう必要もあると考える。

Ｃ事業所からの情報発信

6.　利用者負担や支援内容の説明
　96%丁寧な説明がなされたと評価。
7.　子どもの状況や発達課題での保護者との共通理解
　96%できている評価であった。
8.　保護者面談や育児相談の支援
　90%が適切に行われているという評価であった。
9.　保護者会など保護者同士の連携
　66%できている評価であった。どちらともいえないが 15%、詳しく分からないが 11%であった。保護者対象のイベントなどを計画する必要があると考える。
10.　苦情に対する対応
　84%が適切に対応していると回答している。わからないという回答が 13%いるため周知徹底を課題として考えられる。
11.　意思疎通や情報伝達のための配慮
　92%が適切であると評価している。

15.　支援開始前の打ち合わせ
80%が出来ていると評価している。
16.　支援終了時の振り返り
80%が出来ていると評価している。
17.　記録の徹底、支援の検証・改善
100%が出来ていると評価している。
18.　定期的なモニタリングによる個別支援計画の見直し
60%が出来ていると評価している。
19.　ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせた支援
80%が出来ていると評価している。

D 関係機関と保護者との連携

20.　相談支援のサービス担当会議への参画
100%が適切な人材が参画していると評価している。
21.　学校との情報共有、連絡調整
80%が適切に行っていると評価している。
22.　医療的ケアーの子どもの受け入れ、主治医との連携体制
80%が適切にできていると評価している。これば医的ケア児が当事業所にいないことが関係していると考えられる評価である。
23.　就学前に利用していた幼稚園や保育園など、発達支援事業所との情報共有と相互理解
40%が出来ていると評価している。
24.　事業所を移行するときの情報提供
40%が出来ていると評価している。
25.専門機関との連携や助言・研修の活用
40%が出来ていると評価している。
26.障害のない子どもとの交流
40%ができていると評価している。
27.地域自立支援協議会等への参加
60%が出来ていると評価している。
28　利用者に関する保護者との共通理解
80%が出来ていると評価している。
29　ペアレントトレーニング等の保護者支援
80%が出来ていると評価している。

E 保護者への説明責任

30.運営規定、支援内容、利用者負担額の説明
80%が丁寧な説明を行っていると評価している。
31.　保護者からの相談対応の支援
80%が出来ていると評価している。

12.　情報発信について
94%が適切であると評価している。
・コドモンにて連絡を密にしていた結果と捉える。
13.　個人情報において
88%は十分に注意しているとう評価であった。
方法を課題として考える必要がある。

D非常対応

14.　緊急時対応、防犯、感染症対応について、
88%が適切に対応していると評価している。
15.　非常災害の訓練
84%が適切に行われていると評価している。
一部の利用者のみが行う形となり、評価が低いと考える。その一部の実際の訓練の様子を視覚的に伝える等方法を考える。

E 満足度

16.　通所を楽しみにしている
評価は 90%であった。
17.　支援への満足
評価は 96%であった。保護者の支援に対する満足度は得られていると思われる。

D.　保育所等訪問支援（利用者のみ回答）

18. 支援への満足
評価は 100%であった。ただ、学校に依頼しても受けれてくれなかったという意見があった。

32.　保護者同士の連携の支援
　60%ができていると評価している。
33. 苦情対応
　100%できていると評価している。
34. 情報発信
　80%ができていると評価している。
35. 個人情報の留意
　100%できていると評価している
36. 利用者情報伝達の配慮
　100%でいていると評価している。
37. 地域に開かれた事業所運営
　40%できていると評価している。
38. マニュアルの策定と周知
　60%できていると評価している。
39. 非常災害に備えた訓練
　60%できていると評価している。
40. 虐待防止の研修・適切な対応
　100%できていると評価している。
41. 身体拘束の対応と説明
　80%できていると評価している。
42. 食物アレルギーの対応
　100%できていると評価している。
43. ヒヤリハット事例集の作成と共有
　80%できていると評価している。

D.　保育所等訪問支援（担当者のみ回答）

44.学校との連携が十分できているか。
　80%が十分にできていると感じている。学校から「アドバイスは受けない」と言われ、連携が難しいことがあるという意見があった。

事業所内での分析

【共通点】

環境面：職員の専門性、スペースの確保についてはともに高い評価が多かった。施設のバリアフリー化については、保護者に説明不十分なところがあると考えている。

児童への支援内容：職員・保護者様ともに評価が高い内容が多かった。一方「詳しく分からない」との回答もあり、月間・日々ともに支援内容が伝わっていないことを理解し、今後の伝え方を考える必要性がある。保育所等訪問では学校との連携に難しさを感じることが保護者・職員共にあり、連携が取れればより良い支援につながっていることが分かった。

事業所からの情報発信：個々の面談での支援者と保護者の情報共有はできていると思われるが、保護者人っては保護者同ぢの共有を望んでおられることが理解できるため保護者同士が参加できる参加しやすい保護者会の開催は必須であることを改めて感じる。保護者会の内容は聞き取り調査をするなどして求められる内容を抽出し興味を持って参加できるもので提供していく必要がある。

非常対応：大多数が適切に情報共有出来ていると評価している。しかし避難訓練イベントを予定したが参加者がおらず、時期や発信の仕方も考える必要性がある。

分析・検討してみて…

事業所の強み

・職員に専門性がある。
・適切なアセスメントを行い客観的に分析し計画作成している。
・医療、学校、家庭や他機関（療育センター、児童相談所、区行政など）との連携が実践的に行なっている。
・法人内に保育所等訪問支援があり、学校での問題行動にも連携対応できる。
・看護師、教員などの有資格者がいる事業所である。

事業所の改善点

・苦情対応などの対応方針を契約時のみでなく定期的に告知する機会を増やすことで、保護者の周知徹底を促す。
・非常対応においては、学習支援中の避難訓練は回数も少なく、体験できていない子どももいた。
・保育所等訪問支援では学校との連携を円滑に取れるよう、保護者と協力した働きかけを行っていく。

事業所の改善への取り組み

環境面：

① 活動スペースのバリアフリー化の配慮を確認していただける機会を設けるため、施設見学会や保護者会を定期的に行い事業所に足を運んでいただけるような機会を設ける。

支援内容：

① 子どもや保護者の要望を話し合いながら取り入れ、活動プログラムの工夫を図り、月間予定表などで視覚的に提示する。
② コドモンによる連絡手段を活用し、日々の活動状況の共有を行う。
③ 苦情対応のスタッフ間の手順の理解と丁寧な対応を学び実践していく。
④ コドモンからの連絡内容にしっかり確認し、育児の不安に気づき、職員が育児や相談の面談を実施するなどして保護者とのコミュニケーションを取りやすい関係性を作る。
⑤ 保育所等訪問支援は保護者との連携を密にし、連携を取っていく。

情報発信：

① 保護者会、談話会、交流会を定期的に継続できるように年間計画計画を立案し、実施する。
② 広報誌による活動報告を継続する。

非常対応：

① 緊急時対応マニアル、防犯、感染症対応マニアル策定、保護者への説明や周知を徹底できるような活動方法を見直し実施する。
② 避難訓練や引き取り訓練の実施を放課後教室のみにならないよう個別支援、学習支援の場でも行う。また保護者も避難訓練に参加できるような方法を考え実施する。

その他：

業務改善において、非常勤や常勤の職員の共通理解を図り、温度差が起こらないように人材育成をし、問題が起こらないように業務の改善を図る。
各事業所内だけでなくそれぞれの事業所間において連絡、報告、相談を職員それぞれが意識し日々活動する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者の方から評価を受けることで、改めて当事業所の強みや改善点を知ることが出来ました。職員と保護者の相違点はあまりありませんでした。職員は利用者様のことを理解し保護者の方へ伝える工夫や努力を継続した結果、保護者様との信頼関係が築けていると確認することができました。
事業所の組織やシステム作りなど弱みの部分を踏まえて改善を図り、子どもや保護者の方々と共に健康的な生活が送れるよう支援を目指していこうと考えております。

事業所名　ACO 放課後等デイサービスじょいふる担当者　　中村　三奈美